

山水 百景

100 VIEWS OF
SANSUI

2022.1.29 [土] ▶ 4.3 [日] 開館時間 9:30 ▶ 17:00 ※入館は閉館30分前まで

■休館日：毎週月曜日(ただし3月21日は開館)、3月22日(火) ■入館料：一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

※()内は20名以上の団体割引料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料 ※第3日曜日「家庭の日」(2月20日、3月20日)は、大学生は無料

■主催：公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館、日光市、日光市教育委員会

入江 親《湖畔開漕》2004年(上) 《双猿冠雪》(部分) 2012年(下)
作品はいずれも小杉放菴記念日光美術館蔵

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431
栃木県日光市山内2388-3
Tel: 0288-50-1200
<https://www.khmoan.jp/>



新型コロナウイルス感染症の状況により、会期等が変更になる可能性があります。
お出かけ前に、当館ホームページをご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

中国からもたらされた「山水画」は、画家の胸中にある理想的な風景を描いた作品と定義づけられています。日本においても古くから描かれ、近代では明治末から大正にかけて南画が再評価されたことにより、多くの山水画の名品が生まれました。その中でも、小杉放菴(1881-1964)は日本画の制作に軸足を移して以降、精力的に山水画を手がけるようになり、48歳頃に麻紙を用いたことを機に、墨のにじみを活かした独自の山水画を創り上げました。

時が下り、現代では「山水画」というよりも、山水の「思想」に共鳴し描く画家が多いと言えます。例えば、長年居を構える茅ヶ崎や、故郷である日

山水百景

100 VIEWS OF
SANSUI

光の風景を描くことによって、「自分の風景」を追い求める洋画家・入江 観(1935-)や、自らを「超・日本画家」と称し、水やアクリル絵具を用いて、あらゆる人々の感覚を呼び覚ます絵画を創る間島秀徳(1960-)が挙げられます。年代・制作方法・描く対象ともに異なる2人ですが、山水の思想をもとに制作していることに共通点を見出せます。

本展は、小杉放菴や大山魯牛(1902-1995)らによる近代の山水画から、現代における山水の思想が息づく作品を紹介することにより、山水の系譜をたどるものです。さらには、山水ということばや、画面に描かれた人物にも着目し、画面に込められた意味により深く迫ります。



- ① 大山魯牛《山水(牧豚)》1927年
- ② 小杉放菴《漁樵問答》1950-60年代
- ③ 小杉放菴《漁村夕陽》1930年代前半
- ④ 間島秀徳《Kinesis No.407 (Bakufu Un)》2009年
- ⑤ 小杉未醒(放菴)《雨》1920年頃
- ⑥ 大山魯牛《牛と農夫》制作年不詳

作品はすべて小杉放菴記念日光美術館蔵

【会期中のイベント】

担当学芸員によるギャラリートーク ※予約不要・要入館料

- 2月5日(土)、2月27日(日)、3月19日(土)
- 各日11時～(各回1時間程度)

【次回予告】

- 風景を見る眼 ― 国立公園絵画展 ―
- 2022年4月9日(土)～7月3日(日)

新型コロナウイルス感染症の状況により、会期等が変更になる可能性があります。お出かけ前に、当館ホームページをご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

【交通案内】

電車／東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾、中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分。「神橋」停留所より徒歩3分。車／日光宇都宮道路・日光インターから約2km。併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館



〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3
Tel: 0288-50-1200 <https://www.khmoan.jp/>

